

### I 第25週の発生動向 (2015/6/15~6/21)

1. 伝染性紅斑については、上十三保健所管内で第21週から**警報**が継続しています。
2. 感染性胃腸炎については、患者報告数が205人から157人に減少しました。
3. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、73人から97人に増加しました。
4. 手足口病については、71人から98人に増加しました。
5. インフルエンザの患者報告数は1人で、迅速診断キットによる型別はB型でした。

### II 第25週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東青 (東地方保健所・青森市保健所)		中南 (弘前保健所)		三八 (八戸保健所)		西北 (五所川原保健所)		上北 (上十三保健所)		下北 (むつ保健所)		青森県計		前週からの増減	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		
小児科 内科																
インフルエンザ							1	0.14					1	0.02	-6	
小児科	RSウイルス感染症	3	0.38	2	0.22	2	0.20							7	0.17	-2
	咽頭結膜熱	13	1.63	1	0.11	4	0.40							18	0.43	-7
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	1.38	14	1.56	65	6.50			3	0.50	4	1.00	97	2.31	24
	感染性胃腸炎	35	4.38	15	1.67	40	4.00	7	1.40	31	5.17	29	7.25	157	3.74	-48
	水痘	4	0.50	7	0.78	6	0.60			10	1.67			27	0.64	9
	手足口病	22	2.75	27	3.00	33	3.30			16	2.67			98	2.33	27
	伝染性紅斑	1	0.13	5	0.56	7	0.70			21	3.50	7	1.75	41	0.98	10
	突発性発しん	5	0.63	3	0.33	6	0.60			3	0.50			17	0.40	3
	百日咳															-1
	ヘルパンギーナ			2	0.22					2	0.33			4	0.10	4
流行性耳下腺炎			2	0.22							1	0.25	3	0.07	0	
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎	4	2.00	1	0.33	3	1.50							8	0.73	2
基幹	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															-1
	マイコプラズマ肺炎										1	1.00		1	0.17	-6
	無菌性髄膜炎	1	1.00											1	0.17	1
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)					1	1.00					2	2.00	3	0.50	-2

■は警報、■は注意報。「空欄」:患者発生無し。

### III 全数把握疾患(掲載数は最新情報)

- ・結核(二類全数把握疾患):青森市+東地方2人、八戸1人(2015年計:149人)
- ・細菌性赤痢(三類全数把握疾患):むつ1人(2015年計:1人)
- ・腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患):弘前3人(2015年計:10人)
- ・侵襲性肺炎球菌感染症(五類全数把握疾患):八戸1人(2015年計:10人)

### IV 病原体検出情報 ※ ( ) 内は、検査材料及び検体採取日、検出数です。

- ・川崎病疑い患者(鼻汁、直腸ぬぐい液、5/7)・・・ヒトライノウイルスA:八戸(2)
- ・その他の患者(鼻汁、5/23)・・・ヒトライノウイルスC:八戸(1)

## 感染症の窓

## 腸管出血性大腸菌感染症 (三類全数把握疾患)

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素(Verotoxin)を産生する腸管出血性大腸菌の感染によって起こる全身性疾病です。臨床症状は、腹痛、水溶性下痢及び血便が一般的で、嘔吐や38℃台の高熱を伴うこともあります。重症例では、ベロ毒素の作用で溶血性貧血、急性腎不全を来し、溶血性尿毒症症候群(HUS)を引き起こすことがあります。また、小児や高齢者では痙攣、昏睡、脳症などによって致命症となることがあります。

青森県では、例年7月から9月にかけて腸管出血性大腸菌症患者の発生が多く見られますが、今年は6月(21日現在)に8人発生しています(図1)。他の時期にも発生しているため、常に腸管出血性大腸菌感染症の発生があるものと警戒し、十分な注意が必要です。なお、平成24年10月の多発は腸管出血性大腸菌感染症の集団発生によるものです。

年齢層別では、全ての年齢層で発生しています(図2)。

感染経路は、飲食物を介した経口感染です。腸管出血性大腸菌は牛などの家畜が保菌しているため、食肉は十分な加熱処理が必要です。また、食事前やトイレ後などの手洗いの励行も大切です。

なお、動物からの感染の予防対策は、動物と触れ合った後には十分に手洗いをする、キスなどの過剰な触れ合いをしないこと、動物と触れ合う場所で飲食しないことなどです。

【参考】厚生労働省 HP

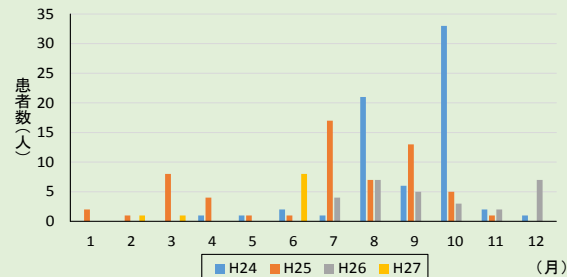


図1: 県内の月別患者数(平成24年~27年)

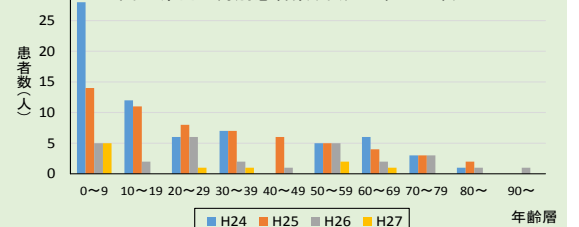


図2: 県内の年齢層別患者数(平成24年~27年)

V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2015年第15週～2015年第25週）

週	期間	東青 (東地方保健所・青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (八戸保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
15	H27.4.6 ~ H27.4.12			カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人			
16	H27.4.13 ~ H27.4.19			アメーバ赤痢1人			
17	H27.4.20 ~ H27.4.26	カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人				侵襲性肺炎球菌感染症1人	
18	H27.4.27 ~ H27.5.3		つつが虫病1人				
19	H27.5.4 ~ H27.5.10			侵襲性肺炎球菌感染症1人			
20	H27.5.11 ~ H27.5.17			侵襲性肺炎球菌感染症1人 後天性免疫不全症候群1人			
21	H27.5.18 ~ H27.5.24	つつが虫病1人 梅毒1人		クロイツフェルト・ヤコブ病1人			
22	H27.5.25 ~ H27.5.31		侵襲性インフルエンザ菌感染症1人	急性脳炎1人		つつが虫病1人 梅毒1人	
23	H27.6.1 ~ H27.6.7	つつが虫病1人 ウイルス性肝炎1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症1人			つつが虫病1人	
24	H27.6.8 ~ H27.6.14	つつが虫病2人 カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症3人 侵襲性肺炎球菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症1人			つつが虫病1人
25	H27.6.15 ~ H27.6.21		腸管出血性大腸菌感染症3人	侵襲性肺炎球菌感染症1人			細菌性赤痢1人

VI 結核(二類全数把握疾患) (2015年第15週～2015年第25週)

単位：人

週	期間	東青 (東地方保健所・青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (八戸保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
15	H27.4.6 ~ H27.4.12		1	1		1	1
16	H27.4.13 ~ H27.4.19		1		1		
17	H27.4.20 ~ H27.4.26	3	1			1	
18	H27.4.27 ~ H27.5.3		2	2			
19	H27.5.4 ~ H27.5.10		1	1		1	
20	H27.5.11 ~ H27.5.17	4		1		1	2
21	H27.5.18 ~ H27.5.24	1	1	1		3	
22	H27.5.25 ~ H27.5.31		1	3	1		1
23	H27.6.1 ~ H27.6.7	2	1	4		1	
24	H27.6.8 ~ H27.6.14	3	1	1			
25	H27.6.15 ~ H27.6.21	2		1			

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国 (2015年第1週～第23週累計)

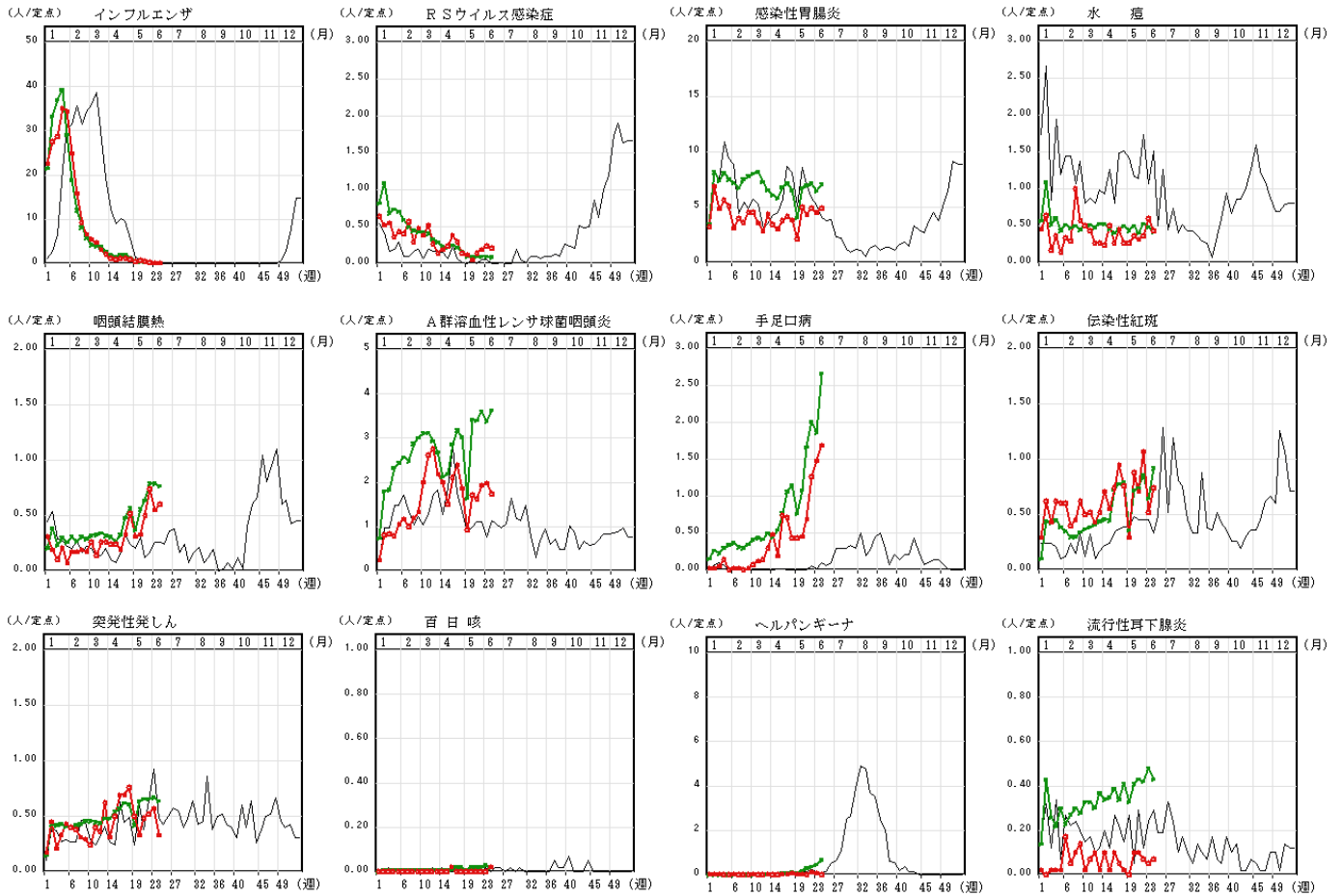
分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	コクシジウム症	重症熱性血小板減少症候群	チングニア熱	つつが虫病	チング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症	マラリア	野兔病	ライム病	レジオネラ症	
累積報告数	10066	3	59	589	20	17	83	126	8	4	1	19	7	57	101	43	3	13	1	3	479	
分類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	急性脳炎	クワトスホリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	播種性クブコックス症	破傷風	パシコマイン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症	
累積報告数	6	449	98	544	233	7	74	213	575	34	110	17	1248	123	899	51	42	23	86	21	14	

青森県 (2015年第1週～第25週累計)

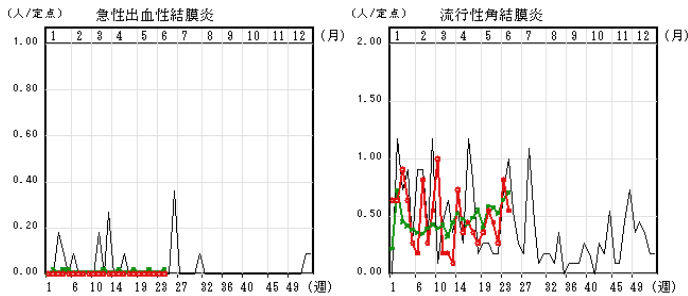
分類	二類	三類	三類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	細菌性赤痢	つつが虫病	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	
累積報告数	149	10	1	8	5	1	7	1	1	2	2	10	2	3	

## VIII インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2015年第24週)

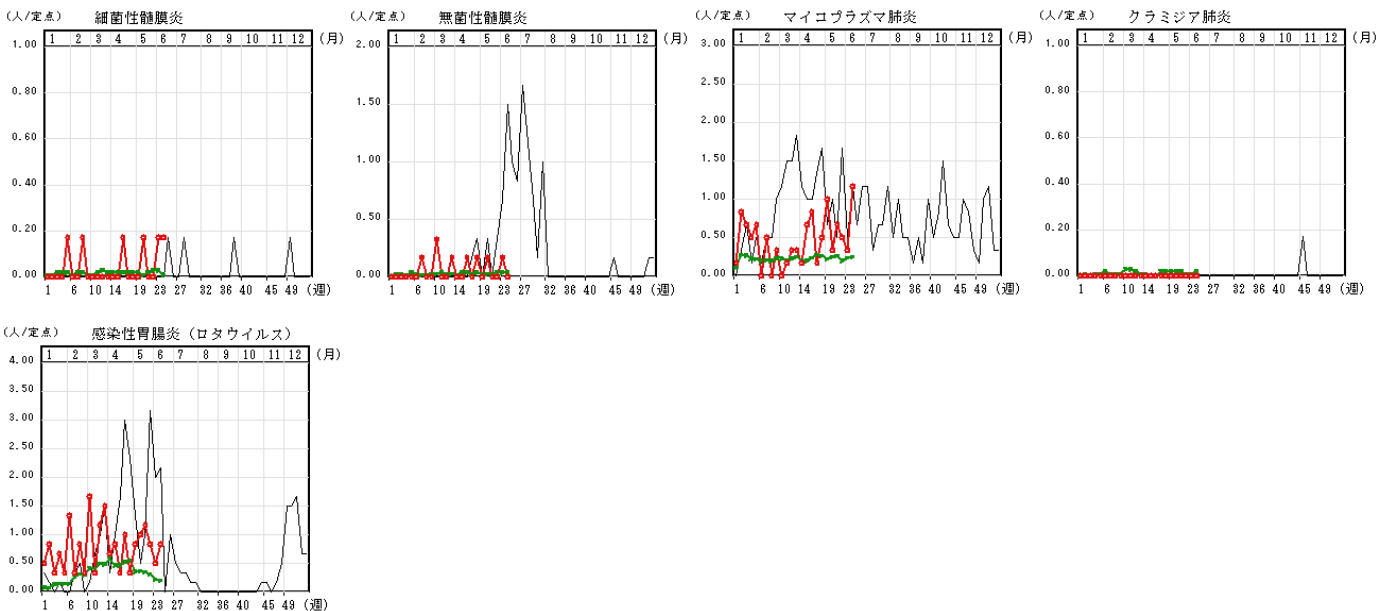
グラフの説明 ○—○は2015年青森県、——は2014年青森県、×—×は2015年全国



## IX 眼科定点把握疾患週別推移 (2015年第24週)



## X 基幹定点把握疾患週別推移 (2015年第24週)



## XI 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成17年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

### 平成27年第25週

報告週 (第1報)	施設種別	発症者数	管轄保健所
第25週	障害関係施設	16	むつ保健所

### 平成27年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月		2月		3月		4月		5月		6月		計 (施)
		1-4週	5-8週	9-13週	14-17週	18-22週	23週	24週	25週					
介護・老人福祉関係施設	件数	7	5	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	15
	発症者数	107	94	47	0	27	0	0	0	0	0	0	0	275
児童・婦人関係施設等	件数	3	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	6
	発症者数	61	0	5	19	0	14	0	0	0	0	0	0	99
障害関係施設	件数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	発症者数	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	16	0	26
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計(月別)	件数	10	5	3	1	2	1	0	1	0	0	1	0	23
	発症者数	168	94	62	19	27	14	0	16	0	0	16	0	400